

16. ジャーナル編集委員会報告

1. 6月30日をもって長田博文, 水谷忠良, 山形邦夫各編集委員の任期が満了し, 後任として蔵野和彦(明治大学), 松元重則(日本大学), 松本裕行(名古屋大学)の各氏が7月1日より編集委員になりました. また市来陽子さんの出産休暇中, 下越弘子さんがジャーナル編集のための秘書を勤めて下さいました. 市来さんは復帰されましたが, 下越さんにも引き続いて勤務をして頂いています.
2. 57巻第3号までが刊行され, 第4号の刊行のための作業が現在進行中です. 平成16年度中の投稿論文数は162(うち海外から59), 掲載した論文数は64(うち海外から10)でした. 投稿数は平成15年度の146(うち海外から39)から10%強, 海外からの投稿数は約20%増加しています. 論文が投稿されてから掲載されるまでの平均日数は年々短くなって来ていますが, 平成16年度に掲載した論文については388日で, 15年度の528日から大幅に短縮されました. 迅速なレフェリーをしてくださった会員の皆様には感謝申し上げます. またバックログの減少に伴って掲載決定の通知が出てから出版されるまでの平均日数も平成16年度は200日で平成15年度の287日から大幅に短縮されています. これにともなってインパクト・ファクターも平成16年には0.435にあがり, ジャーナルは論文の投稿先として著者にとってより魅力あるものとなってきていると思われれます.
3. ジャーナルの電子化の準備が着々と進んでいます. J-StageとProject-Euclidとの二カ所にのせる計画で来年の中頃にはジャーナルは電子化される予定です. 詳しくは戸瀬出版担当理事による記事「Journal of the Mathematical Society of Japan の電子化について」をご覧ください.
4. ジャーナルへの投稿をよりし易くするため PDF ファイルあるいは PS ファイ

ルによる電子的な投稿を認めることとし, 数学会員名簿およびジャーナル冊子に記載することにしました. 詳しくはそちらをご覧ください.

(JMSJ編集委員長 谷島賢二記)